

令和3年度 寺井小学校 重点目標達成に向けて

子どもの実態

よさ 素直 前向き

課題 他人任せ 自信がない

未来に必要な力

- ・society5.0 学び続ける
- ・学習指導要領
- ・石川県がめざす教育の姿
- ・能美市学校教育の目標
- 次世代を切り拓く人勢の育成と地域に根ざした学校づくり
- 「進んで学ぶ人」「感謝と思いやりの心を持つ人」「たくましい心と体を持つ人」

学校教育目的

粘り強く柔軟に考え、安心して心を開き、自ら動き出す寺井っ子の育成

教育目標（めざす児童像）

自分の考えを伝える子

よさを見つける子

みんなが「幸せ」な学校

何ができるようになるのか（資質・能力）
○学校教育の基本

- ① わかろうとして聴く力
- ② 課題解決に向けて、より良い方法を見出す力

何が身に付いたか（評価）

- ① 話している人に視線を向けて、反応を返しながらか聴いている。
- ② 「つなぎ言葉」を使って、話している。
- ③ 「自分の成長」「次に」「これから」「もっと」「まだ」を使って学習を振り返っている。

何を学ぶか（教育課程の編成）

- 教科横断的な視点をもつ
- ① 課題を自分事としてつかむ。
 - ② 友達とつなげて話す「すべ」を身につける。
「つなげます」「似ています」「理由は」「まとめると」「自分の言葉で」「だったら」
 - ③ 基礎学力（漢字・計算・教科言語・語彙・読書）を身につける。
 - ④ 教科で身につけた力を表現活動などで、活用する。
 - ⑤ 自分の力を高める家庭学習の習慣を身につける。



どのように学ぶか（教育課程の実施）

- ① 寺井小授業スタイルでの授業
「必然性のある」課→自→友深→練→ま→ふ
- ② 個別最適で協働的な学び
クロームブックの活用・家庭学習・自学・AIドリル・読書活動
- ③ 教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて学ぶ
- ④ 生徒指導の3機能が働いている授業を通して学ぶ
自己決定・自己存在感・共感的人間関係

自己決定

子どもの発達をどのように支援するか（新たな不登校0）

- 全職員で全児童を見守る体制構築（児童理解、QU活用）
- 教育相談の充実（SCの活用、SOS発信の機会創出）
- 特別支援教育の充実（支援員の活用、UDの授業）
- 子ども支援につながる保護者・専門機関との情報共有・協働
- 基本的生活習慣の確立と健康教育の充実
- キャリアパスポートの活用（何をめざし、何が身についたかを自覚）
- 人権教育、道徳教育の充実（希望と勇気・努力と強い意志 親切・思いやり
よりよい学校生活・集団生活の充実 生命尊重）

実施するために何が必要か

- 目標達成に向けて気持ちのそろった教師集団
- 校内研究の充実（仲間と共に成長する教師）
- 高い危機管理の意識（コロナ対策・いじめ不登校未然防止）
- ギガ校内研修の計画的な実施
- 業務改善・働き方改革（ゆとりをもって子どもと接し、授業の振り返りや計画を立てる時間を確保）
- 子ども理解と教師との信頼関係を基盤とした学級づくり
- 学校の教育資源の有効活用（人・もの・時間・金）

コミュニティ・スクール 学校運営協議会（家庭・地域との連携）

- ◎地域と学校が一体となって役割分担しながら、子どもが通いたくなる学校 保護者・地域が子どもを通わせたいような学校づくりを目指す。
- 家庭・地域との積極的な情報共有を図り、子ども達の健やかな成長を育む。
 - 基本的生活習慣の確立と家庭学習の習慣化を図る。
 - 学校評価等を通して開かれた学校づくりに努める。